

## 矯正治療後に審美的に好ましいと評価される口唇位を有する患者の顎顔面硬組織形態の評価

### 【はじめに】

矯正治療患者の大半は審美的な理由で矯正治療を希望する場合が多く、特にアジア人種である日本人はその人種的特徴として上下顎前突傾向が認められるため、口唇の前突感改善を求める患者さんは非常に多いことがわかっています。そこで我々は、矯正治療後に患者さんの希望する口元、すなわち軟組織側貌における口唇位を評価することは、患者さんの主訴を改善する上で非常に重要であると考えてきました。我々はこれまで、我々が行ったアンケート調査の結果、成人男性では1～3mm平均より後退した口唇位、成人女性では2～4mm後退した口唇位を好ましいとする調査結果を得ることができました。しかしながらこれまで、それらの口唇位を満たす顎顔面硬組織形態の特徴は明らかにされていないため、治療目標に役立てることは困難でした。我々は矯正治療患者を対象としたアンケート調査結果より、好ましいと評価された口唇位を有する者の顎顔面硬組織形態を明らかにし、治療目標に役立てたいと考え本研究を立案しました。

### 【研究内容】

対象：2010年3月までに矯正治療を終了された方。

方法：診療録（カルテ）および側面頭部X線規格写真から必要なデータを抽出し解析を行います。

解析結果は学会や学会雑誌で公表するとともに、本ホームページでも公開します。

### 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望さない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

### 【研究機関】

研究を行う期間は2012年までと考えております。

### 【医学上の貢献】

好ましいと評価された口唇位を有する者の顎顔面硬組織形態を明らかにすることで、矯正治療における治療計画の立案および治療目標の設定という観点で患

者さんに貢献し、医療・福祉の寄与に貢献すると考えています。

【研究機関】

九州大学病院 矯正歯科

教授 高橋一郎

講師 五百井秀樹

大学院 下村卓弘

連絡先：〒812-8582 福岡市馬出 3-1-1

Tel 092-642-6460